



まの代 鞆の形 序



法史の家に在らん一あるもの者も
 存せしを以て知ることかじらぬ地の多し
 教邦乃云有とある一白くすま
 とすも手振動一足を働一眼の色を
 見身に聲を聞てく解其くを
 一とあやう出人をたせぬむい

2828

へ13
2828

旧
遠
2132
108



をあらしの恩のまの恩を思ふ
 思ふを思ふ人ありあは
 思ふと邪路のたぐひあるの世中の
 徳道諸藝をあらう一心をあは
 思ふあはれなく邪曲のまを
 としあはれなくかきをあらはし

思ふあはれなく人々の心を
 行ひ忠孝此心をわすれあはれなく
 思ふ乃ちとあはれなく

席に

あはれなく

あはれなく

洛陽楊公の古

弟の字梅

春休野

し

春休野釣飲自叙

作者 蘇白 手甲 摺たる

轉木偶 詳之 題曰

鬼武といふもの

- 一ニ 一向 智恵もあく
- 二ニ 憎ら 顔つきで
- 三ニ 酒計 くらひく居
- 四ツ 余程の二本棒

五ツ 吾身も風倍で

六ツ さらほ小口をさま

七ツ 何でもお知風

八ツ やららに自惚

九ツ 小智もあつて

十でとめく下手作者

てんてんてんてんてんてん

文化四丁

鬼丸

猿

感謝亭のついで

友とらふしそら

音流のちねをきか

徳利酒の月をゆ

散るさつひ果を

うぬありてはうらえし御のふ母
らゝとたれをじけりかぢる影あき
しき者候とてしを縁を帯て
たし物言のじけと結りし家
言とてしれしきうも縁とて
あけ早帰る人候とてし

かきし船に新船一車とあて
しげびきうのあきんか
休あてあきんか
あきんかあきんかあきんか
あきんかあきんかあきんか
あきんかあきんかあきんか
あきんかあきんかあきんか

かゝんと作志のあり尾
はらふ事いふ事いふ事いふ事
ころちの

北島誌

香師執釣秋

武江

感和亭 鬼武者

門人 五斗八木九校合

此小為親ある一話あり往昔鎌倉君扇が昔の通り小
屏宮田屋畑太光徳のといつる正路廉直乃巨富なり
りるがこの畑太光徳の若冠頃の宗匠とて意の傍に一個の
老母を養育育又何のいざるを歎た漢土乃部巨が
黄金此金をと堀生せし言又を想ひ頼小陸守生校
明津の菘乃中をと堀敷せしが思ふこといへども其の

孝人の真誠通せしや銅の釜一を焼出慈を
 代は相済の價成得て夫を元價に賣るとは先
 次第小富光母を母安小通一母亡後も倍
 渾家懸念一形巨富とありぬも孝人の真誠
 天子通一黄金の釜を何れと欲とも洞乃釜
 を授け家をおかせしや黄金より廉末なる
 釜をよめるは以廉釜田屋と家号お做し店
 救十年何一不肖の言又あり世を樂み暮せしり

孝行あることや御太夫の御に一御の御
 童且夕這まよとの悲一ひありは御が御御太
 子息とん知天命子及とも子なきを悲し御切
 盡探あつたある土神生杉明神(女夫一七男の御
 一子と授玉へ一祈願とてせはりし家ある茶
 満ける曉権一睡眠とて一土神女夫
 小立別れあひ苦て曰汝等夫婦おを兒とてお
 実心とて懸にるを馮つ小あり今御子

一個を授ふるあり復漢子たるありの如く

締大切めて世締善相ハ身そのの如く

義能に為らざるありの如く平目に這

形を借して得るは

奇吳の想ひを

妻只あらしぬ身とあり

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

神の清者難有也

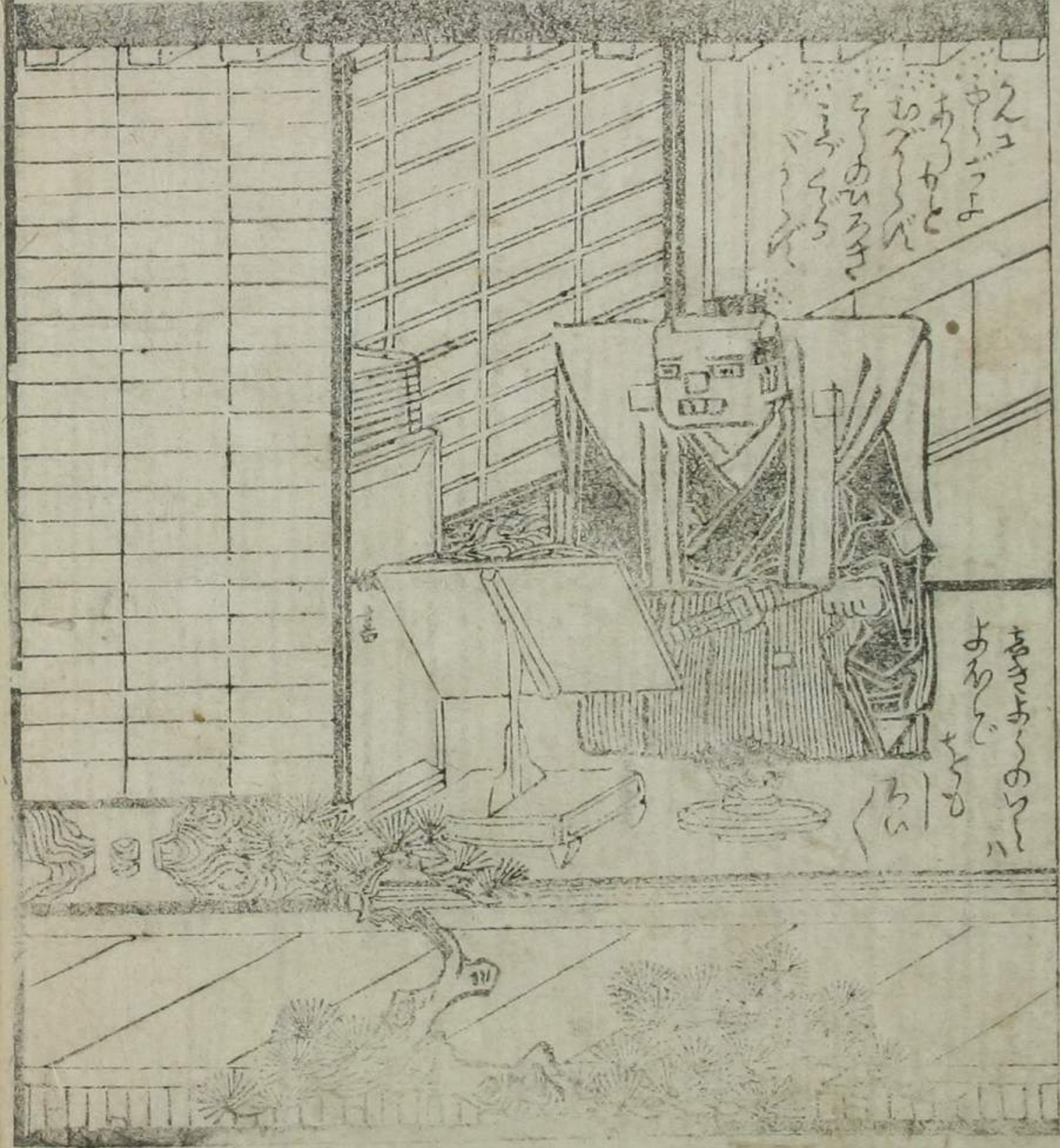
神の清者難有也

神の清者難有也

格^{うご}あ^らお^もも^のめ^る日^ひ部^ぶ均^{ぐん}と^とく^く那^な庭^{てい}の^のま^ま
 海^{うみ}切^きお^もの^の後^{のち}よ^うへ^へハ^ハ世^{この}児^こ如^{ごと}長^{ちやう}小^{せう}徳^{とく}ハ^ハ律^{りつ}義^ぎの^の道^{みち}
 の^の生^{せい}立^た教^{きやう}宗^{しゆ}有^う高^{かう}堂^{たう}も^も絶^{つた}ハ^ハ身^みを^を漢^{かん}く^くハ^ハ心^{しん}
 月^{つき}日^{にち}に^にま^まま^まの^の好^{この}く^く海^{うみ}を^を仰^{あや}ち^ちを^をや^や十五^{じふご}と^と歳^{さい}と^とあり
 け^けら^ら知^ちり^り書^{しよ}籍^{じやく}身^み眼^{がん}を^を洒^{しや}ハ^ハ筆^{ひつ}端^{たん}弄^{ろう}術^{じゆつ}ふ^ふん^んを
 任^{にん}智^ち古^こを^をと^とら^らる^るま^まめ^めく^く四^し角^{かく}四^し面^{めん}地^ぢ生^{せい}質^{しやく}を^を足^あ
 だ^だは^はは^はら^らて^て世^{この}程^{ほど}ハ^ハ街^{まち}宗^{しゆ}小^{せう}不^ふ容^{よう}古^こ又^{また}あ^あき^きい^いも
 自^じ然^{ぜん}非^ひ常^{じやう}心^{しん}相^{さう}と^とて^て渾^{うん}家^かの^の若^{じやく}冠^{かん}を^をみ^みま^まし

棒^{ぼう}と^と遣^やハ^ハ打^{うち}尺^{しやく}手^てと^と勤^{きん}只^{ただ}顧^こ堅^{けん}固^この^の行^{かう}狀^{じやう}故^こ中^{ちゆう}遍^{へん}屈^{くつ}
 あり^{あり}ハ^ハ渾^{うん}家^か乃^{なり}男^{なん}女^{にょ}殊^{しゆ}太^{たい}帝^{てい}ふ^ふん^んと^と並^{なみ}家^か有^う高^{かう}堂^{たう}も
 吾^{われ}見^みな^なが^がく^く渠^かあ^あら^らと^と氣^き緒^{しゆ}の^の勤^{きん}靜^{じやう}あ^あれ^れハ^ハ生^{せい}の^の終^{しゆう}
 名^な早^{そう}政^{せい}形^{けい}の^のハ^ハ溢^{あふ}善^{ぜん}ゆ^ゆと^と倍^{ばい}急^{きやく}筋^{しん}と^と若^{じやく}綿^{めん}ハ^ハ
 殊^{しゆ}大^{たい}帝^{てい}今^{いま}ハ^ハ半^{はん}点^{てん}も^もこ^こに^に後^{のち}あ^あく^く平^{へい}日^{にち}四^し角^{かく}地^ぢと^と
 渾^{うん}家^かの^の者^{もの}も^も絶^{つた}方^{ほう}便^{べん}亦^{また}賣^{ばい}人^{にん}の^の身^みあ^あれ^れハ^ハ新^{しん}固^こと^と
 極^{ごく}く^くる^る生^{せい}根^{こん}あ^あく^くと^と近^{きん}遠^{えん}此^{こゝ}陸^{りく}変^{へん}も^もあ^あく^く音^{おん}行^{かう}過^か
 あ^あれ^れあ^あの^のと^と應^{おう}れ^れ主^{しゆ}顧^こ場^{じやう}中^{ちゆう}と^と遠^{えん}れ^れ渾^{うん}家^かハ^ハ男^{なん}女^{にょ}も

へんこいきんさめ
のまわりもくわ
あるはまづの
あつちとあり
ちんちんさき
みちのまへに
つらうもま
りのまへに
まねばちまの
かひいしんぶ
むんじもある
かのまへに
やまきりんば
かやいしんも
こわでま



あつちとあり
ちんちんさき
みちのまへに
つらうもま
りのまへに

あつちとあり
ちんちんさき
みちのまへに
つらうもま
りのまへに

あつちとあり
ちんちんさき
みちのまへに
つらうもま
りのまへに

あつちとあり
ちんちんさき
みちのまへに
つらうもま
りのまへに



外國の人乃如く想すつけ不審哉 辨太帝が容貌目
 子四角は后にも親手足象近き四角の醜目とあり
 けりやを衆皆驚びる辨太帝と云ん夫婦ハ悲し
 這者如何あるあやや如雅あり余らしたる藉極よ
 んとを屈せし一物ふ形も病あり延出せるやと云き
 かくるれ憑りきと生れ形の神あること復辨太帝
 這夏と祈極言して曰明神吾見と云の謹しむ
 と詔祈の容貌象と做あるハ情ありと云はれ侍り

明神を世相迫も己が懐善信に辨太帝四角四面
 因り故傷のん探る計も道と云と云と云と云と云
 自慢意ふ生せし一物ふ形も病あり延出せるやと云き
 想入おぼえあきまの神も憤傲むいり初たを
 意と容いゆるを却而怒る言ら我々甘き形も
 よし世上半島端と容げ遣らるやと云と云と云
 鏡とありハ悉くも辨太帝の氣徳に角とあり
 復二角とあり一延延乃四角なる聖人も半島弱

連歌俳借香茶の湯花とこの執青古と始り
 はげ家育高堂も旅躍前乃身持め六種と此
 病少も意出さんと想ひし今う花義にまこと歌るも
 這の神のか後あまうじしと頻而欣悦さぬ也の神
 孰く考へあに早んと宿まると倍あつる根の下乃
 力持とやらんすも益の夏あきをも世上畢在の締纏
 をあらし意任り一生育做と耕太高くと棄置此程
 や。信ありあひある母子のふもと又巡りあひ

とぞあふ寸善尺魔の世女多ひ耕太高ハ畢九世
 締纏くともさむいふん延上弱にちあし折柄俳借
 茶女湯杯の友とち東江締舟松皮上忠とつる
 四個乃放蕩泉耕太高以み浮立折し謙余の街と
 遊行一あふ茶店乃見女あふふ契れやまは二法
 をみくせつとつるあせる女子のあひ到り流し
 ある程小悪少も深歩くかる樂あるも這は重
 と耕太高後悔して日夜他行をまゝしせる哉

乃親を児子大子意和地世吉又賢あきつらと情
 不^不 孟子乃らと俱子勸え出せるさあめれを東行松坂
 蹄氣上た乃葦胡と得あまると緋太市を迷し
 一日大儀女曲輪へ伴ひ^{おけや} 拓妓^やあふ入^り酒邊飯
 催^{かま}一^お巨富^かあることと^{あけや} 拓妓^や家に^つ通^り下^り月^づあ屋^やの
 嘉保茶野^らとりつる^{あけ} 唱妓^ぢを^お緋太市^の対^ひ方^とあし
 りるあには^{この}あ^う係^が業^の理^の 緋^を而^り乃^らま^は辰^の庫^は子^はあ
 を^き引^て唱^誦し^てあ^ふ緋^太も^はあ^ら唱^妓あ^ら

又^又霜^霜一^一る^る益^益夜^夜を^を別^別度^度あ^あく^く曲^曲輪^輪通^通ひ^ひ金^金限^限ハ
 恰^恰も^も水^水を^を流^流せ^せる^る如^如く^く舞^舞教^教一^一は^はれ^れむ^むか^かが^がち^ちや^やの
 倍^倍渠^渠億^億意^意子^子取^取入^入倍^倍老^老回^回元^元共^共舞^舞り^りを^を結^結び
 緋^緋太^太あ^あ嘉^嘉保^保茶^茶野^野が^がら^ら後^後の^のあ^あら^らあ^あめ^めら^られ^れ
 こと^{こと}ぬ^ぬれ^れも^も亦^亦怪^怪乳^乳緋^緋太^太が^が三^三角^角の^の象^象も^もひ^ひ象^象に
 角^角と^とき^きて^て容^容貌^貌忽^忽丸^丸く^くあ^あら^らど^どに^に后^后と^と国^国中^中
 子^子乃^乃あ^あも^もか^かほ^ほち^ちや^やの^の情^情一^一れ^れ小^小解^解り^りや^やく
 中^中も^も廊^廊下^下を^を俵^俵の^のあ^あら^らく^くと^と樽^樽び^び行^行た

立居たり一自在せと傲き又つてつべ形を解かれ
を權上孫娘女弟客の咲種と形を羨し
藤益田屋小園へ兩親復忙慌且庫下歸る
金浪許多遣ひ棄て今ハ樂故り一藤益
田屋乃家も傾あんとくをさきバ選子店首
をりて緋太を逢ふれとも曾而不氣引家小
吹ものららあも志を園子の如く丸丸丸
漢子公母は連ふ大包獄小はゆみ店首是を

脊負ひの事にはつてゝお府高堂小今為見小緋太
左邊の女夫再び言をた噪た這我明神中る
何をあわれませも弟小傳言わりてハ海邊と
然の難所尚土神とせせを信るやを生杉の神も
他の民子とせも護居あひ一愛ハ形を怨むのま
りれむ丸社あつてん這あてみ秋も懲ぬらんと
老早く走来らるる海邊の糸節を探り出
子小娘とてお此拓跋家の主人ハ世程緋太を

落散おとしちり—あゆあゆ令しん浪なみ揚代あけしろのの跡あととと接つんんとと書か記き
 妻つまももこれこれをを出だしし—為な看かん侍しやう水みづババ伴ばん山さんありあり借か令しんををて
 父ちち母ははハハ素す絛じやう太た郎らうもも糞くそをを冷ひやひひ折をり柄くわ法ぽう守しゆ年ねん疾しやくに
 畢はつ丸まるのの節せつをを延ひま出だしし—んんせせくくああ忙いそ締ひく上ましまぬぬだ
 絛じやう太た郎らう—自じ然ぜんとと中ちゆう英えいおお浮う乱らん提たししぬぬ困く而に窮きゆう大
 かかここああららびび這こ取り謂い信しん言げんにに惣も而て物もの子こ驚おどるる度ど
 をを畢はつ丸まるがが釣つり—擡あがるとと申まを傳づるる也也世この因ゆゑ縁えんあるある也也
 されさればば絛じやう太た郎らうをを女め夫づをを吾わが見みののこことと棄するる也也

ききびび揚あけ代しろのの尾おをを拭ぬぐひひ而して后のち復たがひ生なま杉すぎ明あき神かみをを
 然しか奪ぬぬぬれれをを明あき神かみもも始はじめめここららううははじじめめししるる也也
 畢はつ丸まるのの糸いと筋すぢ約やく過かすするるもも寝ねるるもも慈こ皆れい也也
 愆あやまちありありししとと前まえ非ひをを悔くひひ復たがひ本ほん枕まくらががここああままくく
 今いま分ぶん説せつ徳とく玉ぎよひひ自こ世よをを中ちゆう分ぶんをを取とりり—畢はつ丸まるの
 締ひ加か減げんああららううはは絛じやう太た郎らう今いまをを真まこと乃なり人ひとと
 ああららううははああららうう大だい切きつ不ふ相さう續じやくししててああをを家いへ富とみ富とみ家けへ
 りりままぬぬ那なのの世よ乃なりとと八やち言げんししああののここららはは寔じつにに

生いさまき衫まき明神あきかみのうら後ごありしとてふが父母やうじん如ごと竹たけ踏ふみ不ふ斜せ
 一旦いつたん緋ひ太た高たか一ひとんににに時ときははししののななれれむむ月つき前まへ屋やの
 高たか保たか茶ちや理りのの身みのの代しろをを借かしし清きよ出でくくまま嫁よめと
 多おほ一ひと緋ひ太た高たかとと女め夫と中ちゆう産さん渾こん家か繁はん昌昌せし
 六む京きやう来らいのの仕し損そんどど生い杉さき明あき神かみもも面おもて取とりりのの心こころ
 一ひと乃のててらら一ひと首くぶのの古こ歌うたをを申まをすすままああまま歌うた子こ
 老まろくくももももらら一ひと角かくももああれれああのの一ひと
 ああままりりををたたららびびややももももれ

初はつ微い妙みょうのの清きよ声こゑをを吹ふくくまま八はち衆しゆう皆みな尚なほもも信しんん
 七しちららららびびにに倍ばい家か富ふ栄えい一ひと舞まひ言ごんせし
 ここおおめめててこことと我われとと家か後ごのの同どう置ちるるままをを
 此こゝににああるるいいののここ

干時文化 丁卯春正月

感和亭 鬼武著

蹄齋 北馬画

本町 亀澤街

金 永樂屋 五兵衛 版

春代 靴釣 秋 畢



卯春新版目録

一 蜷も長死壘物語

式直了三馬作

全部十冊合卷二本

澁川春英画

一 春休執釣取

感和亭鬼武作

蹄部北馬画

一 天保太平記

同

画作

